

2021年2月18日

小樽市長 迫 俊哉 様

小樽多喜二祭実行委員会

共同代表 荻野富士夫 倉田 稔

琴坂禎子 寺井勝夫 中井秀紀

北海製缶小樽工場第3倉庫を保存し  
その活用と北運河地域の活性化を求める要望書

2020年9月以降、北海道新聞などは、北海製缶小樽工場第3倉庫の解体問題、その保存活用を求める小樽商工会議所・小樽観光協会を主体とする民間組織「第3倉庫活用ミーティング」（仮称）の発足とその活動などを報じています。

小樽多喜二祭実行委員会は、2020年11月6日「北海製缶小樽工場第3倉庫を保存し、北運河地域の再活用を求める要望書」を迫俊哉市長に提出し、「小樽市が、保存活用の方途を関係者と市民の英知と合意を集めて具体化すること」「北運河地域の価値を高める“荷役の舁”の復活と小樽の歴史を甦らせる地域への再生計画を実現すること」を要望しました。

厳しいコロナ禍の中で、緊急の課題が小樽市の業務を逼迫させていると思いますが、この問題は小樽市の未来に関わる問題です。小樽の近代化の歴史と豊かな文化遺産を、観光都市小樽の財産として保存し、多くの市民・地場の企業が生き生きと活用する、そのために小樽市が積極的に行動を起こすことを求め、下記のように要望します。

記

1 北海製缶小樽工場第3倉庫保存と活用の具体化について

(1) 多喜二祭実行委員会の基本的立場

- ① この倉庫は、小樽運河地域の歴史的建造物の象徴であり保存すること。
  - ・2012年小樽市の歴史的建造物に指定されています。
  - ・小樽市にはその管理保存の責務があります。
  - ・そのために必要な、担当部署、事業計画、市民への広報関係、保存・維持・管理運営の計画、財政計画などを明らかにする。
- ② 歴史的建造物・遺産としての価値を如何に保存するかを十分に検討すること。
  - ・大正から昭和初期の小樽の経済的発展の歴史を伝える。
  - ・小樽運河、港湾機能と経済活動の発展を示す建造物群を伝える。
  - ・小樽経済の発展を支えた港湾労働者の世界（小林多喜二の作品世界）を伝える。
  - ・今日の小樽観光の基礎を築いた小樽運河保存運動を伝える。
- ③ 小樽市が保存活用の方途を関係者と市民の英知を結集して具体化する。

(2) 保存倉庫の活用の具体化について

歴史的建造物などの保存は、保存し活用して維持管理する政策的展望が必要である。そのために以下の具体化を要望する。

① 北運河地域をはじめ、小樽運河を統括するセンターを設置する。

- ・北運河地域と小樽運河観光を統括するセンターが必要である。
- ・管理責任者、渉外・報道・学芸員など必要な人員の配置が必要。
- ・「潮まつり」「雪あかりの路」など夏冬の市民的イベントとの結合を図る。
- ・観光地としての価値の向上を図る。

② 市民、観光客・見学旅行生などの学習施設としての機能を持たせる。

- ・歴史的資料の展示室、学習室・講座室、体験学習施設
- ・運河完成と小樽経済の発展の歴史、  
運河のジオラマ、港の博物館（石炭積出港）、港湾労働、  
小林多喜二の世界、缶詰工場の歴史
- ・小樽運河保存運動の歴史的価値と小樽観光

③ 市民文化の活性化のために多目的ホールを造る。

- ・文化活動の支援 舞台活動の稽古場
- ・舞台芸術公演・ミニ映画館・「運河フェスティバル」の開催
- \* 「市民会館」「マリンホール」「産業会館」等とのすみ分けを考慮する。
- \* 市民参加の運動の呼びかけと小樽市の構想案の作成。

(3) 現在、唯一小樽運河の原型を残す北運河地域の価値を高める

① 観光客の利用性の向上、大型バス等の駐車場確保

- ・内外の旅行会社との連携を進める。
- ・見学旅行の候補地に成長させる。

② “荷役の経”の復活、周遊ルート・見学ルート、貸自転車

歴史案内掲示板の充実、北運河地域全体の活用を展望する

以上